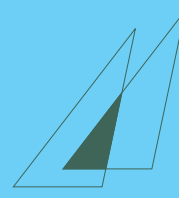


自動車会議所 ニュース

発行所



一般社団法人 **日本自動車会議所**
Automobile Business Association of Japan

〒105-0012

東京都港区芝大門 1-1-30 日本自動車会館

電話：03 (3578) 3880

FAX：03 (3578) 3883

URL

https://www.aba-j.or.jp



第2回 CSO大賞2022

2023 **2** 特別号
No.947

発行人 山岡 正博 編集人 田村 里志

受賞の11企業・団体が参加

表彰式・交流会を開催

第2回クルマ・社会・パートナーシップ大賞



大賞を受賞した十勝バスの野村文吾社長（写真左から2人目）と共同応募事業者でKPMGモビリティ研究所の小見門恵所長（写真右から2人目）



大賞受賞を喜ぶ地域住民の様子。表彰式会場と現地をオンライン中継で結び、喜びを声にする住民の姿がみられた



「第2回クルマ・社会・パートナーシップ大賞」表彰式。新型コロナウイルス感染症予防の観点から昨年に引き続き、オンラインとの併催で執り行われた

日本自動車会議所（内山田竹志会長）は2023年2月10日、東京都港区の芝パークホテルで第2回（2022年度）「クルマ・社会・パートナーシップ大賞」（CSO大賞）（共催：日刊自動車新聞社）の表彰式を開催しました。大賞、選考委員特別賞、部門賞を受賞した11の企業・団体をはじめ、グッドパートナーシップ事業に選定された企業・団体の関係者などが出席しました。開催に先立ち

あいさつに立った内山田会長は「この賞は自動車に関わるすべての人々の地道な活動や貢献に感謝を伝えるとともに、その素晴らしい取り組みが世の中に広がっていき、一助になればと思うから創設しました。将来的には、自動車に関わるすべての皆さまに目指していただける賞にしていきたい」と語りました。なお表彰式の後、初めて交流会が開催されました。

受賞者 喜びの声
大賞「十勝バス」
「弊社のコミュニティバスのベースとしたアナログ重視のMaas実装の諸活動を評価いただき、感謝申し上げます。われわれは都市政策×交通政策という国の新たな政策に合致させ、加えて市民の近くまでモノやサービスを運ぶ新たな使命を物流×人流で果たし、社会課題を解決する考えです。共に挑戦していただいたKPMG様に変感謝を申し上げます。住民の皆さま、パートナーの皆さまと、さらに取り組みを進化させてまいります。」
選考委員特別賞「豊田合成」
「この度は、選考委員特別賞という素晴らしい賞をいただき大変光栄に思っております。受賞したいですね。取り組める地域に貢献する社会の困りごとを何とかしたいです。」
同「VONTE自動車」
「この度は、本賞をいただき大変光栄に思っております。受賞したいですね。取り組める地域に貢献する社会の困りごとを何とかしたいです。」
同「VONTE自動車」
「この度は、本賞をいただき大変光栄に思っております。受賞したいですね。取り組める地域に貢献する社会の困りごとを何とかしたいです。」

受賞者 喜びの声
第2回のCSO大賞は、十勝バス（野村文吾社長、北海道帯広市）による「郊外エリアの地域再活性化や移動機会増加を目指す」、地域のコミュニティバスのベースとしたアナログ重視型Maas（サービスとしてのモビリティ）実装の諸活動」が受賞しました。
表彰式で野村社長は「身が引き締まる思いです。さらに、（いまの活動を）改善しながら取り組んでいきたい」と語りました。表彰状が授与されたあと、野村社長が取り組みをプレゼンし、「バスは人だけでなくモノやサービスも運ぶことができ、交通は街づくりと一体を進めていかなければなりません」と強調しました。
また、会場と地元・帯広市が映像でつながれ、周りに雪が残る中、「マルシェバス」の前に地元住民ら約20人が集合。受賞を祝う横断幕を掲げたあとで、
選考委員を務める日本財団パラスポーツサポートセンターの田口亜希推進戦略ディレクターは「すべてが受賞に値する内容でしたが、泣く泣く絞らなければならぬ。他人を思いやり、社会をよくしていく、課題を解決していくという気持ちは共通していました。この賞を通じて注目され、知られることでまた素晴らしい取り組み、製品が生まれていくと思っております」と講評を述べました。

受賞者 喜びの声
中継では、マルシェバスの中も映し出されました。バスの中は前部3分の2が乗客スペースで、残りの後部は食品などの「飛び場」。カメラが入ったときは、商品が飛び切れたあとで、
選考委員を務める日本財団パラスポーツサポートセンターの田口亜希推進戦略ディレクターは「すべてが受賞に値する内容でしたが、泣く泣く絞らなければならぬ。他人を思いやり、社会をよくしていく、課題を解決していくという気持ちは共通していました。この賞を通じて注目され、知られることでまた素晴らしい取り組み、製品が生まれていくと思っております」と講評を述べました。

受賞者 喜びの声
「この度は、選考委員特別賞という素晴らしい賞をいただき大変光栄に思っております。受賞したいですね。取り組める地域に貢献する社会の困りごとを何とかしたいです。」
同「VONTE自動車」
「この度は、本賞をいただき大変光栄に思っております。受賞したいですね。取り組める地域に貢献する社会の困りごとを何とかしたいです。」
同「VONTE自動車」
「この度は、本賞をいただき大変光栄に思っております。受賞したいですね。取り組める地域に貢献する社会の困りごとを何とかしたいです。」

い、という志を同じくした市民・民・異業種が手を組んで実現したものです。今後はさらにパートナーの皆さまと共に活動を広げ、外出時のトイレ問題や災害時の車中泊避難に悩む方がより安全・安心に、笑顔で過ごせる社会づくりを目指し活動を進めていきます。この度は、本賞にありたいです。」
同「VONTE自動車」
「GOOD BYE DRIVEアプリは、AI等による運賃特性予測や走行記録確認などを通じて安全運転を促進することで、交通事故の少ない社会を実現したい」と思い、開発しました。また、商品アプリを活用した保険商品「安全運転でキャッシュバックプラン」は、運転特性（急ブレーキ・急ハンドル）に応じて保険料を最大30%キャッシュバックするため、安全運転をより意識していただくやすいと考えています。引き続き、交通事故の少ない社会実現への貢献を目指します。」
同「東京都トラック協会」
「今回、この素晴らしい賞をいただき、心より感謝申し上げます。会員事業者の方々とともに、未来につながるプロジェクトとして、私たちができることをコンセプトに、日々の継続的なエコドライブ活動から、環境CSRを推進し、日々取り組んできたことの実績が評価されたものと受け止めております。今後も、毎日の生活を支える物流の担い手として、持続可能な社会を目指すため、常に環境と安全を守り、より一層の努力を重ねてまいります。」
同「自動車ユーザー連携賞」
「この度は自動車ユーザー連携賞をいただき、誠に光栄に思います。弊社は、サービス提供側と受ける側の双方の安心安全に繋がる講習で移動の円滑化を促進し、全ての人へ平等な移動の自由が享受できる社会の実現を目指してまいります。これからも、人々のカーライフにおける豊かさの創造に最高の貢献をする」の理念の下、年齢や身体状態を問わない共生社会の実現に向け、移動のしやすさに着目したさまざまな仕組みを構築いたします。」
同「自動車技術会」
「この度は、『自動車ユーザー連携賞』を賜り、誠に光栄に存じます。学生フォーミュラ大会は、速い車を造れる優勝できるには限りなく、競うのはものづくりの総合力です。産官学みなさまのご支援・ご協力により20年継続し、延べ2万5千名の人材を輩出してまいりました。引き続き自動車業界の大変革の時代を生き抜くための人材を育成してまいりますので、変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。」